

収録・解説 酒井董美

語り手 大原寿美子と  
人(明治40年生まれ)

昭和54年10月5日収録

## あらすじ

昔、博奕(ばくち)打ちが博奕に負けて、禪(ぜん)一つになっ  
てしまった。山には天狗(てんぐ)が  
おあって上がったら、あ  
の峰に投げ込まれると言  
われている。

博奕(ばくち)打ちらはみんな恐れ  
るその天狗の山にまたが  
って、自分の商売道具(しょうばいどうぐ)じ  
ゃけえ、サイコロ(サイコロ)こ  
ろっと転がしちゃあ「大  
阪が見えた」言う。また  
拾(ひろ)って転がしちゃあ「江  
戸が見えた」。転(ころ)ほしち  
ゃあ「京都(きょうと)じゃあ」言っ  
て一人で喜ん(よろこ)ぶたら、  
天狗(てんぐ)さんが出て「おまえ  
はええもんを持(も)つとるじ  
ゃ、そりゃほんに見(み)える  
だか」「ほんに見(み)える」

## 天狗の隠れ蓑

(八頭郡智頭町波多)



## 灰がはげで正体ばれる

「替(か)えてあげる」言う  
替(か)えたが最後、隠(かく)れ蓑(かさ)の  
燗(あ)り(お銚子(さけ)のこと) お父(ちち)っつあんは入れとら

と隠(かく)れ笠(かさ)と持(も)つてとんで  
もどつて、昼間(ひるま)働(はたら)いとい  
て、晩(ばん)は隠(かく)れ蓑(かさ)を着(き)て、  
隠(かく)れ笠(かさ)かむつて、飲食店(いんじきだん)  
や茶屋(ちや)とか飲(の)み屋(や)へ入(い)っ  
ちゃあ、ごちそう出(で)とる  
のを酒(さけ)も飲(の)み、ごちそう  
も食(た)い、ご飯(い)も食(た)うなど  
「替(か)えてあげる」言う  
替(か)えたが最後、隠(かく)れ蓑(かさ)の  
燗(あ)り(お銚子(さけ)のこと) お父(ちち)っつあんは入れとら

と隠(かく)れ笠(かさ)と持(も)つてとんで  
もあの燗(あ)りも空(から)になる、  
いうようなこと、毎日  
たちよつた。  
男(おとこ)が働(はたら)きい出(で)とる間  
へ、お母(はは)さんが「掃除(そうじ)を  
しよつ」とたんすを開(ひ)け  
て見たところが、汚(きた)い破(やぶ)  
れた古い笠(かさ)と蓑(かさ)と出(で)たけ  
た、何(なに)ちゆう汚(きた)いものを  
お父(ちち)っつあんは入れとら  
しもうた」。

「替(か)えてあげる」言う  
替(か)えたが最後、隠(かく)れ蓑(かさ)の  
燗(あ)り(お銚子(さけ)のこと) お父(ちち)っつあんは入れとら

「うーん。何(なに)ちゆうこ  
とをしたらあや」言う  
て、そこへ行(い)って、その  
灰(はい)をちよつと手(て)に塗(ぬ)って  
みたところが、手(て)がちよ  
つとも見(み)えんしする。「こ  
りゃええことじゃ」思(おも)う  
て、それから、体(てい)中にど  
つ(どこ)にも塗(ぬ)って出(で)たど  
ろが途中(ちゆうちゆう)で、しっ(しつ)こがし  
とつなつて、しっ(しつ)こをし  
たところが、濡(ぬ)れたら灰(はい)  
じゃけえ落(お)ちてしもう  
て、それでそこだけ出(で)て  
しもうて、何も知(し)らんじ  
ゃけえ、行(い)つて飲(の)み屋(や)か  
らごちそうが出(で)とる。酒(さけ)  
から肴(さかな)からご飯(い)から出(で)とるのを、片(かた)っ端(は)から酒

「替(か)えてあげる」言う  
替(か)えたが最後、隠(かく)れ蓑(かさ)の  
燗(あ)り(お銚子(さけ)のこと) お父(ちち)っつあんは入れとら

「替(か)えてあげる」言う  
替(か)えたが最後、隠(かく)れ蓑(かさ)の  
燗(あ)り(お銚子(さけ)のこと) お父(ちち)っつあんは入れとら

「替(か)えてあげる」言う  
替(か)えたが最後、隠(かく)れ蓑(かさ)の  
燗(あ)り(お銚子(さけ)のこと) お父(ちち)っつあんは入れとら

## 解説

この話は大原さんの母  
方(はな)のおじいさんから聞(き)か  
れたものという。笑話(わらわ)の  
中の「誇張(くわ)譚(だん)」に「隠(かく)  
れ蓑(かさ)」として戸籍(こせき)のある  
話(わらわ)である。

(元鳥取短期大学教授)

(水曜日に掲載)

「替(か)えてあげる」言う  
替(か)えたが最後、隠(かく)れ蓑(かさ)の  
燗(あ)り(お銚子(さけ)のこと) お父(ちち)っつあんは入れとら